**岡山県のがん診療における病病・病診連携に関するアンケート調査**

岡山県がん診療連携協議会　研修教育部会

平素より、岡山県のがん診療にご尽力いただきましてありがとうございます。

おかげをもちまして、岡山県のがん診療は国内でもトップレベルの診療体制が維持できていると考えております。しかし、がん診療における連携については、まだいくつかの課題が残されていると考えられます。

岡山県がん診療連携協議会の研修教育部会では毎年研修会を開催しておりますが、今年度は、岡山県のがん診療における病病・病診連携をテーマとし、今後の改善に向けてWebで意見交換をしたいと思います。

つきましては、その基礎資料を作成するにあたり、アンケート調査を実施したいと思います。ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、別紙のアンケートに忌憚のない意見を頂戴できましたら幸いです。また、貴施設と連携している病院・診療所にも本アンケートをお送りいただき、アンケートへの協力のお声がけをしていただけましたら幸甚です。

ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

尚、本アンケートは、研修会の資料を作成するために行うものであり、集計したデータは研修会にのみ使用し、終了後は破棄いたしますことを申し添えます。

返送先　　〒700-8558

岡山市北区鹿田町2-5-1

　　　　　　　岡山大学病院医事課 診療支援担当 宛

　　　　　　 Fax：086-235-7613

e-mail：[sinryousien@adm.okayama-u.ac.jp](https://deskneo.adm.okayama-u.ac.jp/scripts/dneo/zwmljs.exe?_=1609889361346)

　　　　　　　件名に【連携アンケート】と御記入願います。

返送期限　　2023年1月10日（火）

　　●本アンケートの結果はオンライン研修会(zoom利用)にてご報告致しますのでぜひご参加ください。

　　　2023年２月８日（水）１９：００～　（事前申込み必要）

　　　１２月中旬に「岡山県がん診療連携協議会」のホームページに開催要項を掲載し、申込み受付を開始します。

岡山県医師会生涯教育講座単位も申請予定です。

こちらの様式のみ御返信、御返送願います

＜返送先＞

〒700-8558　岡山市北区鹿田町2-5-1

　　　　　　　　　　岡山大学病院医事課診療支援担当　宛

　　　　Fax：086-235-7613

　　　　e-mail：[sinryousien@adm.okayama-u.ac.jp](https://deskneo.adm.okayama-u.ac.jp/scripts/dneo/zwmljs.exe?_=1609889361346)

　　　　　　　　件名に【連携アンケート】と入れてください。

**岡山県のがん診療における病病・病診連携に関するアンケート**

**（岡山県がん診療連携協議会教育研修部会）**

次の質問で該当するところにチェック☑をお願いします。

**Q1　貴施設は以下のどれに該当しますか。**

* 病院
* 診療所
* 在宅サービス提供事業所（訪問看護・訪問介護・訪問リハビリ・通所介護等）

**Q2　貴施設が所属している医療圏はどこですか？**

* 県南東部保健医療圏（岡山市・玉野市・備前市・瀬戸内市・赤磐市・和気町・吉備中央町）
* 県南西部保健医療圏（倉敷市・笠岡市・井原市・総社市・浅口市・早島町・里庄町・矢掛町）
* 津山・英田保健医療圏（津山市・美作市・鏡野町・勝央町・奈義町・西粟倉村・

久米南町・美咲町）

* 真庭保健医療圏（真庭市・新庄村）
* 高梁・新見保健医療圏（高梁市・新見市）

**Q3　あなたの職種はどれに当たりますか？（回答任意）**

□　医師　□　看護師　□　薬剤師　□　理学療法士　□　保健師　□　検査技師　□　MSW・地域連携室　□　その他　（　　　　　　　　　　　　）

**Q4　がん患者の病病・病診連携（薬物療法・放射線療法・手術療法などを実施した患者の診療の連携、もしくは緩和医療の連携）の経験がおありでしょうか？**

* ある　　　□　今後行う予定である　　　□　ない

★「ある」「今後行う予定である」と回答された施設は、Q5以下の設問にもお答えください。　「ない」と回答された方は本紙のみのご返送をお願いいたします。

**Q5　がん患者の病病・病診連携（薬物療法・放射線療法・手術療法などを実施した患者の診療の連携、もしくは緩和医療の連携）において困っていることもしくは不安なことは何でしょうか？（複数回答可）**

□　どのような治療をすればよいのか、どんな治療が求められているのか、わからない□　どのようなインフォームドコンセントがされているかの情報が得られにくい

□　今後起こりうる症状に対する対処法がわからない（十分な対応ができない）

□　至急（夜間・休日も含めて）の検査を行う体制が不十分である

□　状態が急変した際の入院（転院）先を探すのに時間がかかる

□　スタッフの教育をどのようにすればいいかわからない

□　その他

（自由記載でお願いします）

**Q6　今後、がん患者の病病・病診連携を推進するうえで、特に有用性が期待できるものは何でしょうか？（複数回答可）**

□　がん診療連携パスの内容拡充

□　がん診療連携パスの運用の見直し

□　晴れやかネットの推進

□　新たな情報マネージメントの開発（クラウド化、PHRなど）

□　テレビ会議システム

□　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

**Q7　 がん患者の病病・病診連携において、うまくいった症例、あるいは困った症例など、ございましたら、差しさわりのない範囲で具体的にご教示ください。**

（例１　　○○○な問題があったが、○○○を工夫することで円滑に連携できた）

（例２　　○○○で連携を図ったが、○○○な問題を生じた）

ご協力ありがとうございました。